

— 農林事務所管内の動き —

1 福岡農林事務所管内

■ 農業

- ・福岡市西区の鬼木晴人^{おにきはると}氏は、令和5年春の褒章で黄綬褒章を受章。昭和46年の就農以来、米・麦の収量向上に努め、また、福岡市農業協同組合の組合長や福岡県信用農業協同組合連合会の経営管理員会長を歴任。
- ・古賀市小野地区では、スマート農業技術の導入や高齢者等への生活支援を目的とし、「スマートアグリビレッジおの推進協議会」が設立。令和5年度は自動操舵トラクターや半自動乗用移植機の実演会、農用地保全ワークショップやスマートグラスを用いた買い物支援を実施。
- ・防災重点農業用ため池の劣化による決壊の危険性の評価については、ため池特措法の有効期間である、12年度までに完了する予定。管内877か所のうち、656か所の評価作業が完了。
- ・糸島農協養豚部会では、糸島豚ブランドの価値向上による持続可能な養豚経営実現の取組を4年度から開始。これまで、若手生産者勉強会や交流会等により機運を高めるとともに、糸島豚PRイベントを開催し、消費者へアピール。令和6年度は、地域団体商標登録に向け、さらなる取組を行う予定。
- ・4年度に、管内で4件の高病原性鳥インフルエンザが発生したことを受け、管内8か所の養鶏場で野鳥侵入防止ネットを強化したほか、ため池においてドローンや大型カイト（凧）を活用した野鳥の追い払いを実施。また、佐賀県唐津市での豚熱発生を受け、野生イノシシの豚舎接近を防ぐ緩衝帯設置、豚熱ワクチンの全戸接種をはじめとする緊急対策を実施。

地域のトピック

○株式会社百笑屋の代表 松崎治久^{まつざきはるひさ}氏が全国麦作共励会農林水産大臣賞受賞

- ・令和5年度全国麦作共励会中央審査委員会（農家の部）において、糸島市の株式会社百笑屋の代表松崎治久氏が最高賞である農林水産大臣賞を受賞。
- ・松崎氏は、麦類49ha、水稻26ha、大豆7ha等を作付けする土地利用型の大規模経営農家であり、地域の農業をけん引する存在として活躍。
- ・県で開発された部分浅耕一工程播種技術やドローン防除、自動操舵システムの導入により、省力低コスト栽培を実現し、県平均を上回る収量を確保。
- ・積極的な女性の雇用や、周辺農家の農作業の請負、耕畜連携などの様々な取組を実施。
- ・県産麦をPRするため、「糸島ビアファーム」を開催するなど、地域農業にも貢献。



株式会社百笑屋



糸島ビアファーム

■ 林業

- ・福岡教育大学附属福岡小学校の5年生児童が取り組む森林学習を支援。令和5年11月及び6年1月に、篠栗町の森林施業現地において、チェーンソーや高性能林業機械による伐倒作業と植栽地の見学を実施。これにより、林業に対するイメージを明確にするとともに、森林組合や農林事務所の職員との活発な質疑応答により、林業の現状や課題を学習。森林・林業のサイクルの理解が深まるよう、2月の総仕上げの授業では、森林に関する取組について作成された児童からの提案書へアドバイスを実施。
- ・糸島市において、「放置竹林の整備」と「メンマの純国産化」を目標として地域の活性化を図るため、「純国産メンマサミット in 糸島 2023」を5年11月に開催。全国から約400人が参加され、竹林整備を実践する全国の代表者による事例発表等により、持続可能な竹林整備や純国産メンマづくりの機運が向上。
- ・また、「森をめぐる糸島の今」をテーマに一般県民を対象とした糸島市林業振興研修大会を、5年11月に開催。同市内の森林・林業に携わる人々の取組の紹介や交流の場として、トークセッションやミニライブを実施。木製遊具コーナーや林業安全衛生用品・チェーンソーをはじめとする林業関連用品の展示販売ブースも設置。県内から187人が参加し、参加者からは「林業従事者の生の声が聴けたことは興味深かった」といった意見もあり高評価。
- ・福岡地区森林・林業推進協議会と協同で、構造材にCLT（直交集成板）を使用した志免町弓道場で見学会を5年12月に開催。建築士や設計士など26人が参加。

地域のトピック

○糸島市の森林基幹道「第3^{らいざんうきだけせん}雷山浮嶽線」が全線開通

- ・糸島市の森林基幹道「第3^{らいざんうきだけせん}雷山浮嶽線」（総延長19,181m、幅員5.0m、利用区域内の森林面積1,366ha）が、平成5年度の着工から31年の歳月を経て完成。
- ・当林道は、「瑞梅寺ダム」の上流に位置していることから、地域林業の振興のみならず、森林整備の促進による水源かん養機能の発揮に貢献。
- ・沿線には、「水無鍾乳洞」^{みずなし}といった景勝地もあり、観光客の増加による地域活性化にも寄与。



森林基幹道「第3雷山浮嶽線」



沿線における間伐

2 朝倉農林事務所管内

■ 農業

- ・令和5年梅雨前線豪雨により被災した農業者の経営再開につなげるため、関係機関と一体となり、農業機械・施設災害復旧支援事業をはじめとする各種事業を活用し、久留米市ほか6市町村で農業機械・施設の再取得や種苗、資材の購入など、総事業費20億円、2,197件の復旧事業を実施。また、農地・農業用施設において、農地やため池への土砂の流入に加え、取水施設及び有害鳥獣侵入防止柵の破損等が発生。令和6年1月までに、国の災害査定は終了し、順次復旧工事に着手。
- ・久留米市の株式会社農業都市デザインシステム研究所が、柿「秋王」の国内外への販路拡大を図るため、県農林業総合試験場が確立した冷蔵及び包装資材技術を活用し、「秋王冷蔵柿」の商品開発に着手。東京・沖縄の大規模商談会にも商品を出展し、バイヤーから高く評価。
- ・JA筑前あさくらとJAにじが、5年産から大豆「フクユタカ」を県育成品種「ふくよかまる」に全面切り替え。関係機関と連携し、適期播種や管理作業の徹底により、初年目で、200 kg/10aを超える高収量を達成。
- ・平成29年7月九州北部豪雨災害からの復興を目指して、朝倉市黒川地区では、令和5年8月に地域の農地を守り活用する「一般社団法人くろがわ」を設立。JA筑前あさくらは、6年2月に、同災害における被災農家の営農再開への支援等のために設立した「ドリームファーム」の3期生3人に経営を移譲。3年間で被災農家を含む9人がアスパラガス農家として独立。また、4年度に、復旧園地に開設した「朝倉フルーツファーム」では、スモモ生産者を育成中。

地域のトピック

○農福連携を推進

- ・久留米地区では、障がいのある方が、ミズナ・ホウレンソウ・トマト・イチゴといった施設野菜や花き・花木の生産現場において、収穫調製・育苗・株の抜き取り作業で働くことのできる農福連携の取組を推進。
- ・久留米市農業振興協議会（久留米市、JAくるめ、普及指導センター等で構成）では、今後も、障がいのある方の活躍の場を支援していくため、令和6年1月に福祉作業所7か所が久留米市の株式会社ONE GO（ワンゴー）で、イチゴのパック詰作業見学会と連携推進に向けた意見交換を実施。
- ・久留米市北野町の有限会社千広農産では、農福連携の取組を進める一環として、「ノウフクJAS※」の取得に取り組み、普及指導センターがGAPの考え方に基づく安全管理や法人としての行動指針の策定について支援を行った結果、6年2月に認証を取得。

※ノウフクJAS：障がいのある方が生産行程に携わった食品の農林規格認証



有限会社千広農産の
稲吉広樹代表

■ 林業

- ・朝倉市の福岡県樹苗農業協同組合では、国の補助事業を活用し、圧入機・抜取機をはじめとするコンテナ苗生産施設を整備。少花粉サシスギを中心に、周年植え付けを可能とするコンテナ苗の増産を目指す。
- ・筑前町の福岡県立夜須高原記念の森では、開園から約30年が経ち、施設が老朽化していることから、県有施設緑化事業を活用し、溪流園内の木製八つ橋をリニューアル。橋の幅員を^{ふくいん}広げることでバリアフリーにも配慮し、県民が利用しやすい公園へと整備。
- ・東峰村の宝珠山きのこ生産組合代表理事である川村卓三^{かわむらたくみ}氏が、日本特用林産振興会の功労賞を受賞。全国に先駆けて、菌床シイタケ生産を開始し、村内のシイタケ農家に働きかけて農事組合法人を設立し、村の地域産業として定着させた功績が評価。
- ・平成 29 年 7 月九州北部豪雨で被災した林地は、県が治山激甚災害対策特別緊急事業を活用して 47 か所の復旧を行い、令和 5 年 11 月までに完了。また、令和 5 年梅雨前線豪雨で被災した林地については、早期復旧を目指し治山事業をはじめとする関連事業を推進。
- ・令和 5 年梅雨前線豪雨で被災した久留米市ほか 3 市では、緑化木や林業用苗木生産者が速やかに生産を再開できるよう、関係機関と一体になり、ほ場からの土砂撤去や生産資材の購入、機械の修理、再取得を支援。

地域のトピック

○福岡県森林組合連合会浮羽事業所が、最新式の選木機を導入

- ・うきは市の福岡県森林組合連合会浮羽事業所では、国の補助事業を活用し、大径^{たいけい}木も自動選別が可能な最新式の選木機を導入し、作業を効率化。原木の供給力の強化を図る。



選木機



竣工式

3 八幡農林事務所管内

■ 農業

- ・ J A北九では、播種適期が長く、「フクユタカ」より収量が多い、県育成大豆新品種「ふくよかまる」へ全面切り替えを実施。令和5年度の単収は前年比120%に向上。
- ・ 管内で生産された農産物を活用した6次化商品の数は、5年度に2品目が追加となり48品目まで増加。「令和5年度ふくおか6次化商品セレクション」では、遠賀屋糰こめのはなが開発した「博多べいめん玄米衛（げんべい）」が福岡県商工会連合会会長賞を受賞。同社は、4年度の県議会議長賞に続き2年連続の受賞。
- ・ 管内では、ワンヘルスの推進に向け、農林水産物や加工品のワンヘルス認証取得の取組を推進。5年度にキャベツやびわ、赤しそなど38品目が新たにワンヘルス認証を取得し、累計44品目に拡大。
- ・ 岡垣町高倉びわ活性化協議会では、高齢化により生産者の減少が進む産地の活性化のため、新植園地を整備。栽培技術の実習を行うびわ生産塾の取組を開始し、成園となる4年後に入植する塾生（新規就農者）を募集したところ、8人が決定。
- ・ 遠賀町の尾倉・千代丸地区では、担い手への農地集積・集約化を目指し、5年5月に土地改良区が設立され、農地中間管理機構と連携し、農地整備事業を開始。
- ・ 令和5年度福岡県麦作共励会（農家の部）で、遠賀町の浪松 薫^{なみまつかおる}氏が優秀賞（県知事賞）、特別賞（福岡県農業協同組合中央会会長賞）を受賞。地域平均を大きく上回る単収が評価。
- ・ 令和5年度福岡県大豆作経営改善共進会（農家の部）で、遠賀町の森盛義^{もりしげよし}氏が優秀賞（福岡県米・麦・大豆づくり推進協議会会長賞）、特別賞（全国農業協同組合連合会福岡県本部長賞）を受賞。
- ・ 令和5年度福岡県青年農業者会議において、岡垣町の俵 口和義^{ひょうぐちかずよし}氏が福岡県農業指導功労者として表彰。長年に渡り、地域農業の発展に貢献された実績が評価。

地域のトピック

○北九州市に共同物流施設（ストックポイント）が完成

- ・ 青果卸売業者が、県内各産地の青果物を集約し、大都市圏への共同輸送を行うことを目的として、強い農業づくり総合支援交付金を活用し、共同物流施設（ストックポイント）（6,809 m²）を整備。
- ・ 定温（2℃、15℃）冷蔵庫内での卸売機能の導入により青果物の品質管理が充実。
- ・ 施設内における入荷車両の待機時間の低減を図るため、青果物流デジタル化推進費を活用し、物流情報データ管理システムを整備。
- ・ 送り先ごとの物量やパレット枚数といった物流情報データによるストックポイント内の積み替え作業や配車計画を効率化。



新たに完成した共同物流施設（内観）

■ 林業

- ・北九州市、北九州市森林組合及び住宅メーカーなどの5者が、令和4年度に「地域材の利用拡大に関する建築物木材利用促進協定」を締結し、5年度から搬出間伐による地域材の供給、製材、加工した材による住宅建設に着手。
- ・労働環境の改善のため、高性能林業機械の導入を推進するとともに、林業経営体に対して、作業員への研修参加の働きかけや、労働基準監督署との合同パトロールを通して、事故防止にかかる指導を実施。
- ・イノシシによる被害防止対策のため、4年度から岡垣町において、人と野生動物の棲み分けを図る緩衝地帯を整備し、出現頻度が大幅に減少。
- ・「自然という大きな命をみんなで繋ごう」を大会テーマとして、5年11月、第74回県植樹祭が遠賀町の「おながみらいテラス」で開催され、遠賀町長がワンヘルス推進宣言を発信。
- ・高級食材としてのブランド力を有する「合馬たけのこ」の後継者育成を図るため、生産者、JA北九、北九州市などで組織した「合馬たけのこ生産者育成サポートセンター」と連携し、新たに就業した4人に対する竹林管理に関する研修会を開催。
- ・令和5年梅雨前線豪雨により、岡垣町波津地区で山腹斜面が崩壊し、寺院や人家に被害が発生。早期復旧を図るため、治山事業に着手し、県による施設維持管理事業が6年3月に、岡垣町による林地崩壊防止事業が6年5月に完了。

地域のトピック

○放置竹林対策につながる「竹製残存型枠」

- ・放置竹林対策に向けた竹材利用の一環として、「竹製残存型枠」を北九州市合馬地区で治山ダムに使用。「竹製残存型枠」は竹材と杉材を使ったパネル式の型枠で、従来から使用している「木製残存型枠」より軽量のため施工性が向上。
- ・令和5年12月、「福岡県放置竹林対策連絡会議」の構成市町の職員と県農林事務所の治山事業担当者を対象に、竹の利用拡大に向けた研修会を開催。「竹製残存型枠」の製作に携わる「一般社団法人 森人未来ノ研究所」の出口学^{でぐちまなぶ}所長による加工組立の実演の後、治山現場での使用状況を見学。



竹製残存型枠



竹製残存型枠の加工組立の実演

4 飯塚農林事務所管内

■ 農業

- ・飯塚普及指導センター管内では女性農業者が、それぞれの経営課題に応じた経営者育成塾や営農基礎講座といった研修会に参加することで、経営参画の意欲が高まっており、経営改善計画の作成支援をはじめとするサポートを受けた結果、新たに2人が認定農業者として認定。
- ・添田町有害鳥獣対策協議会は、令和2年度から、福岡県鳥獣被害対策強化事業（捕獲獣の有効利用の拡大事業）に取り組んでおり、捕獲後の止め刺し・放血・加工施設までの運搬といった作業を ALSOK 福岡株式会社が担った結果、5年度の獣肉処理施設での処理頭数は元年度に比べ、イノシシで81頭、シカで143頭増加。加工品販売についても、4年度からは「道の駅歓遊舎ひこさん」で販売を開始し、5年度からは飲食店へと販路を拡大。
- ・田川市の肉用牛農家（株式会社山崎畜産 代表 ^{やまさきたつや} 山崎竜也氏）が、畜舎等の建築等及び利用の特例に関する法律（令和4年4月1日施行）に基づく畜舎建築利用計画の認定を県内で初めて取得。福岡県堆肥利用拡大によるワンヘルス推進事業を活用し、低コスト堆肥舎を改修。
- ・令和5年度ふくおか6次化商品セレクションにおいて、JA直鞍が「やさしい巨峰サイダー」で福岡県農業協同組合中央会会長賞を、直方市の^{こめたか}米貴（代表 ^{やまもとたかえ} 山本貴絵氏）が「米粉の笑笑」・「玄米米粉の笑笑」で特別賞（農林漁業者部門）を受賞。
- ・6年3月に行われた全国青年農業者会議において、九州・沖縄地区代表として意見発表した田川4Hクラブの^{たかせひろと}高瀬寛人氏が農林水産大臣賞を受賞。これに先立ち5年7月に行われた九州・沖縄地区青年農業者会議において、高瀬氏と^{なかむらあつし}中村篤氏（プロジェクト発表）が福岡県代表として発表。

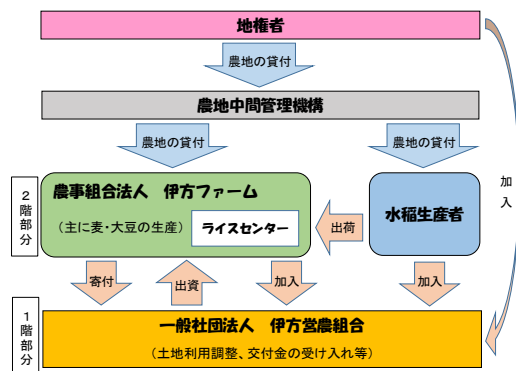
地域のトピック

○福智町で県内初となる法人2階建ての集落営農組織が誕生

- ・福智町の集落営農組織「伊方地区営農組合」は、地域営農を永続的なものにするため、農地の利用管理を行う団体として「一般社団法人 伊方営農組合」を令和5年10月に設立するとともに、5年12月には、営農を行う「農事組合法人 伊方ファーム」を設立し、法人2階建ての集落営農組織として体制を整備。
- ・この2法人が連携することで、地域営農の維持・強化や担い手の確保に期待。



一般社団法人 伊方営農組合
設立記念式典



地域営農システム（2階建て）の概略図

■ 林業

- ・添田町では、県産材の有効活用の一環として、早生樹であり、家具材としての利用が期待されるセンダンを植栽しており、植栽木を用材として利用しやすくするため「芽かき研修」を実施し、町、森林組合の職員 24 人が参加。
- ・令和 3 年度よりしいたけ栽培を始めた小竹町の事業者が、第 42 回福岡県ほだ場コンクールで福岡県知事賞を、第 54 回福岡県椎茸品評会で福岡県特用林産振興会会長賞を受賞。
- ・添田町では、人と野生生物の棲み分けを図るため、イノシシの生息密度を把握したうえで、被害も多い野田、中元寺地区において、里山林の間伐、除伐といった「野生動物緩衝林整備事業」を 2.26ha で実施。雑草木を除去し野生動物が身を隠すことのできない緩衝林（緩衝地帯）を整備することにより農林業被害の軽減を目指す。
- ・添田町では、日田彦山線沿線の地域振興と交流人口の増加を図るため、「道の駅歓遊舎ひこさん」の背後に広がる森林を、福岡県森林環境税を活用して除伐、間伐の森林整備を行い、誰でも森と親しむことのできる施設として「フォレストアドベンチャー・添田」を 5 年 4 月にオープン。
- ・令和 5 年梅雨前線豪雨による林道施設被害は、管内 4 市町村（飯塚市、添田町、赤村、福智町）において 10 路線 15 か所発生。添田町の 1 か所を除く全ての箇所の復旧工事に着手し、赤村 2 か所と福智町の 1 か所の計 3 か所で復旧工事が完了。

地域のトピック

○ゴルフ場内で原木しいたけ栽培

- ・小竹町にあるゴルフ場の運営会社は、イノシシ被害を軽減するため、場内にあるクヌギ林を伐採。これを有効活用して、全国でも珍しいゴルフ場内での原木しいたけ栽培を開始。
- ・ゴルフ場の低温高湿な環境を利用して良質なしいたけを生産し、「天空茸」という名称でブランド化し、ゴルフ場内のレストランで提供。
- ・環境教育にも力を入れており、地元小学生 48 人を対象にしいたけ駒打ち体験を実施。駒打ちした原木は学校に持ち帰り、しいたけ発生の観察学習及び収穫体験に利用。



ゴルフ場内でのしいたけ原木栽培



しいたけ駒打ち体験

5 筑後農林事務所管内

■ 農業

- ・ J Aみなみ筑後は、かんきつ集出荷施設の機能向上のため、国の補助事業を活用し、新たに高精度カメラやA Iによる果実品質を判定する選果機と製品プールラインを整備。これにより、生産規模拡大の阻害要因であった農業者の選別作業を自動化し、全国トップクラスのかんきつ産地をより一層強化。
- ・ ワンヘルスの取組を進めるため、化学肥料低減を目的とした堆肥の製造・散布を行う機械導入や、「福岡県ワンヘルス認証制度」を取得した八女茶やいちごといった県農林水産物等に係る、出荷資材経費の助成など、生産から流通・販売まできめ細かく支援。
- ・ 農事功績者表彰で、筑後市の角整樹氏^{すみせい き}が緑白綬有功章を受章。八女地域はもとより、県域のナシ、ブドウ部会長も歴任するなど、長年にわたる県内の果樹産地発展に対する功績が高く評価。
- ・ 福岡県青年農業者会議の実績発表の部で、八女地区4 Hクラブ員の住吉健太氏^{すみよし けんた}が、クラブ員による狩猟免許取得から箱わな設置マニュアルの作成までをプロジェクト班で取り組み、地域の鳥獣被害減少に挑戦した活動成果を発表し、知事賞を受賞。令和6年度九州大会に出場予定。
- ・ 第45回全国土地改良大会福井大会において、みやま市の柿原廣典氏^{かきはら ひろのり}が農林水産大臣賞を受賞。山川地区土地改良区の理事長として、中山間地域でのほ場整備の事業推進に尽力し、地域農業の発展に貢献したことが評価。

地域のトピック

○福岡の八女茶発祥 600 年祭の開催・八女茶の発展に貢献した小松保夫氏^{こまつ やすお}（八女市）が黄綬褒章受章

- ・ 令和5年度は、第77回全国お茶まつり福岡大会と併せて、福岡の八女茶発祥 600 年を記念して八女市内で記念式典を開催。功労者表彰や講演会のほか、記念茶会や八女茶マルシェが開催。
- ・ 5年秋の褒章において、八女市の小松保夫氏が茶業で黄綬褒章を受章。「福岡県茶業青年の会」を設立するなど長年の後継者育成や地域茶業の振興が評価。



福岡の八女茶発祥 600 年祭



黄綬褒章を受章した小松氏

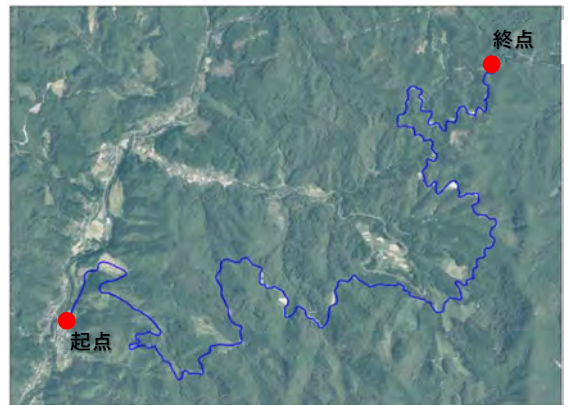
■ 林業

- ・ 早生樹の植樹活動を通したワンヘルスの普及のため、一般社団法人ワン・ヘルス・クリエイツは、大川市の家具業者や福岡県八女森林組合と協力し、「第1回ワンヘルスセンダンププロジェクト」を開催。当日は一般公募による親子連れなど 58 人が植樹活動に参加。
- ・ 全国の林業研究グループが活動発表を行う全国林業グループコンクールに、八女市の黒木町林業振興会が九州ブロック代表として参加。日頃のグループ活動の地域林業への貢献などが認められ、林野庁長官賞を受賞。
- ・ 八女地区林業研究連絡協議会は、八女林業の振興と地域林業者の技術向上を目的とした「八女林業振興研修大会」を4年ぶりに開催。地域の林業者をはじめとする78人が参加し、「八女林業を未来に引き継ぐために」を大会テーマに、記念講演や地区林業研究グループの活動報告を実施。
- ・ J Aふくおか八女たけのこ部会は、たけのこの生産管理の見本となる展示竹林を整備。併せて部会員をはじめとするたけのこ生産の関係者を対象とした生産管理講習会を開催。会員が伐竹手法や今後の肥培管理について理解を深めることで、シーズンを通した安定出荷を目指す。
- ・ 福岡県八女森林組合は、花粉が少ないスギの苗木を供給するため、4年度から母樹園を造成、5年度は少花粉スギの母樹200本を植栽。9年の出荷を目指す。

地域のトピック

○森林管理道「仁田坂～国武線」が全線開通

- ・ 仁田坂～国武線は、八女市星野村字屋敷ノ上から同市星野村字コウカ原を結ぶ全長10,627m、幅員4.0mの森林管理道。
- ・ 平成21年に着工、令和5年に全線が開通し、林道からの間伐等による森林整備が進む。
- ・ 林道「石割岳線」や県道「浮羽石川内線」、市道に連絡しており、全線開通によって、より効率的な木材生産が図られ、地域の林業振興に寄与。



森林管理道「仁田坂～国武線」全景

6 行橋農林事務所管内

■ 農業

- 管内の市町では、地域計画策定の先行実践区域である築上町八津田地区が実施した意向調査、現況地図の作成及び目標地図の作成手法を共有。今後、関係機関が一丸となり、地域計画策定に向けた取組を推進。
- 管内では、近年の「シャインマスカット」の人気を受け、ぶどう栽培希望者が増加。これに伴い、京築普及指導センターでは、栽培技術習得や生産者相互の交流のため、「京築ぶどう研究会」を設立。
- J A福岡京築いちご部会では、栽培技術の向上を目的に、ハウス内の温度、湿度、照度及び炭酸ガス濃度を測定する環境測定機器の導入を推進。高収量生産者とのハウス内環境や生育の比較が可能となり、生育に応じた適切な栽培技術を学ぶことで、新規栽培者2人が県平均以上の単収を達成。
- 令和4年度の「築上きくいもふりかけ」に続き、株式会社瑞穂の「豊前姫かほりごぼ^{みずほ}う茶」が令和5年度ふくおか6次化商品セレクションで福岡県知事賞を受賞。県の6次産業化発展事業を活用して「帆柱和紅茶」、「冷凍あまおうパフェ」といった商品も誕生。
- 京築地域農業・農村活性化協議会では、近年、農作物や生活環境への被害が問題となっている特定外来生物のアライグマについて、その生態や防除対策への理解を深めるための研修会を開催。農作物被害を防ぐため、農業者自身の狩猟免許取得を推進。
- 行橋市の稲童地区、豊前市の三毛門北部地区、築上町の安武4地区では、担い手への農地の集積・集約化を図るため、農地中間管理機構と連携し、農地の集団化・大区画化を行う農地整備事業に着手。また、これに伴い設立された稲童土地改良区では県内初の女性理事長が就任。

地域のトピック

○令和5年度全国麦作共励会（集団の部）で全国米麦改良協会会長賞を受賞

- 築上町の農事組合法人今津の里が農林水産大臣賞に次ぐ全国米麦改良協会会長賞を受賞。
- 堆肥や土壤改良資材の投入による土づくりを行い、排水対策・土入れといった基本的管理作業を徹底し、高い収量・品質を達成。
- 経営面では、築上町が製造するし尿処理液肥や汚泥肥料といった低コスト資材を活用して経費を削減。機械の点検・整備は、組合員自らが実施。
- 地域の防風林の除草作業や小学生の農作業体験を積極的に行うなど、地域農業の重要な担い手として活躍。



全国米麦改良協会会長賞を受賞した
農事組合法人 今津の里

■ 林業

- ・みやこ町の丸山健二氏まるやまけんじは、適切な施肥と親竹管理により良質なたけのこを生産。その生産林が評価され、第 48 回福岡県竹林品評会で、管内初の農林水産大臣賞を受賞。
- ・令和 3 年度から中国に向けた原木輸出に取り組んでいる「福岡京築・大分北部地域連携木材輸出協議会」では、中津港で輸出材の径級や材質に関する研修会を実施し、30cm 以上の大径材も需要があることが改めて認識され、今後は、大径材の出荷を促進し、更なる輸出量の増加を目指す。
- ・京都森林組合では、新たな経営理念と経営方針を設定し、原木生産の取組を強化していくという方向性を職員全員で共有。今後は、理念の実現に向けて、普及指導員と連携しながら中長期計画を策定する予定。
- ・「京築ヒノキと暮らすプロジェクト（ちくらす）※」では、都市住民に森林と海の大切さを伝えるために、福岡市の水族館で木育イベントを開催。ちくらすの活動を紹介するパネルを展示するとともに、京築ヒノキを材料に形取った「スナメリフィギュア」を紙やすりで磨き上げるワークショップや、山と海のつながりに関する講話を実施。「ヒノキの香りに癒された」、「磨かれたフィギュアの木目が綺麗だった」、「森林の大切さが良く分かった」といった感想が聞かれ、好評を博す。

※京築のヒノキと暮らすプロジェクト（ちくらす）：平成 27 年度から開始した京築地区森林・林業推進協議会と地元の大学等による産学官連携で、京築ヒノキの新たな活用方法を提案する取組。

地域のトピック

○森林基幹道「西犀川線」が全線開通

- ・京都郡みやこ町と田川郡赤村を結ぶ森林基幹道「西犀川線」が平成 11 年度の着工から 25 年の年月を経て、令和 5 年 11 月に全線開通。
（総延長 25,353m、幅員 5.0m、利用区域内の森林面積 1,827ha）
- ・町道に連絡しており、祓川はらいがわ、今川上流域の林業生産性の向上だけでなく、生活道路や災害時の迂回路としての役割も期待。
- ・周辺には鷹峯権現たかくつごんげんをはじめとする史跡もあるため、観光振興にも寄与。



西犀川線 3-2 工区